



今年も八月がやって来ました。八月十五日は先の大戦の終戦記念日です。75周年です。例年ならば、甲子園球場で行われる全国高等学校野球選手権大会の試合中、プレーを中断し黙とうが行われます。戦争を知らない世代が圧倒的になった今日でも平和に感謝し、永遠の平和を祈ります。ああ、人と人が触れ合い、絆を深め、周りを慮（おも）んばかる出水社会よ。益々の定着を。以下、『出水郷土誌』下巻から。

責任者 田島 英樹

## 終戦

八月十五日、重大放送があるというので、隣りの吉永さん宅にラジオを聞きに行った。ラジオは村に二軒しかなかった。その頃、吉永さん宅には上等兵曹以下三十人近い兵隊が部屋を借りていた。私達には「忍び難きを忍び、堪え難きを堪え」とおっしゃるところだけは分かったが、後は雑音で分からなかった。上等兵曹だけが涙を出していた。〈中略〉たしか、八月二十一日だったと思う。旧盆の十四日であった。村の布令役が、今日中に五里以上の山奥に避難するようにと大声で呼びながら走って行った。出水の叔父が大川内の白木川内温泉の近くに小さい疎開家を作っていたので、私たちはそこに行くことにした。牛も残しておいてアメリカ兵に食べられては可哀想だから連れて行こうと荷車を引かせることにした。もう二度と戻れないのではないかと思つた。出水の街を抜けて山道にかかると人や荷車が續いていて、まるで蝸牛の行列である。途中の山には軍の廃車が捨ててあり、軍人の姿は見えない。行く手の空に絶え間なく雷が光り、何とも言いようのない惨めな情けない気持ちで、祖国の勝利を信じて死んだ人が羨ましいと本気で思つた。私が、牛の手綱を取り、上の弟が棍棒を握り、下の弟は半分眠りながら、下の妹は車に乗せたり歩かせたりした。なげなしの握り飯が転げ落ちたり、父と母と上の妹と親子七人、食道癌が既に末期に近かつた父もとうとう一晩歩き通した。途中、子牛が谷に落ちた家もあつた。白木川内に着いたときは、夜が明けていた。皆が避難している間に軍の物資を横領した人も居たそう。誰も居ない村に帰った帰還兵が、マッチが欲しくて、村中捜して歩いた話も聞いた。

（「終戦時の掛腰周辺」石原雪江『出水文化』第六九号から）

昭和二十一年、たしか五月だつたと思う。父は冷たい戦地から、疲れ果てたみすばらしい姿を我が家へ見せた。母はちようど畑へ出かけ、姉と私、それに弟と三人、いつも遊ぶ庭の石にこしかけていたのだつた。家は七畳一間、そして、家財道具も少なく貧しかった。父が帰つた日の喜び、そしてあの日のわが家は忘れられない。もつとも、私が、あの小さな掘立小屋を覚えていて、あの日、あの日、あのやつれた父の顔が、家族の一員となつた日を覚えていて、かじやないかと思う。〈中略〉帰つてきた日の父の姿が目につく。大きな背のうを背負い、厚い服を着け、大きな革のクツをはき、重たそうに足をひきずりな

がら、目には涙を浮かべていた。

（「父」深水敦子『出水文化』第七号から）  
『出水文学』は昭和二十九年（一九五四）七月二十五日、出水文学会（代表者田島秀隆）が創刊

## 「学徒動員そして終戦」

川内孝子

五十六年目の終戦記念日八月十五日がめぐってきた。終戦の放送を聞いたのは、東京吉祥寺駅近くの外食券食堂（外食券と引き換えに食事を提供する食堂）だった。この時、私は十八歳。出水高女を卒業して、東京文京区の帝国女子専門学校家政科三年生の夏だった。ラジオの雑音混じりの天皇陛下のお声。戦争が終わつたことを知つた。「ああ、これで空襲警報がなくなる」という嬉しさだけをひしひしと感じたことが、昨日のこのように思い出される。上京したころは、東京はまだ戦争の影もうすく、日曜日には映画館・歌舞伎座・浅草国際劇場、銀座などを、遠くは中国・韓国・日本各地から集まっている寮の友人たちと歩き廻って学生生活を楽しんだ。戦争を身近に感じたのは、昭和十八年十月二十一日。学徒動員の出陣式に神宮外苑のスタンドに参列した。東京都内の総ての大学生が各大学毎に、学生服にゲートル（兵隊が膝から下の足に巻いたじょうぶな硬い布）を脚に巻いて入場行進し、それを東条大將が敬礼で見送る。それは、秋雨の降る歴史の一頁であつた。昭和十九年、私たちは女子学生も学徒動員令が下り、板橋の凸版印刷・陸軍の兵器廠。北千住の日本皮革と、勉強は二の次で軍需工場への通勤だった。工場内の働き手は若い女性と中年以上の男性たちだけ。今考えると、日本の勝利を信じて、何も疑うことなく生きた青春だった。昭和二十年（一九四五）に入り、戦局が厳しくなつた。米軍の沖繩上陸、三月の下町の大空襲、そして四月にはとうとう小石川の学校・寮舎も空襲で全焼した。リュックを背負い防空頭巾をかぶり、B29が低空飛行で焼夷弾を投下する中を、友人と手を握り必死で拓殖大学の方に向かった。夜空が焰で昼間のように明るくなり、三階建ての木造校舎が、音を立ててくずれ落ちるのを目の前にして泣いた。隣りの寮生一人と舎監が防空壕の生き埋めで亡くなった。その夜、いつ警報が出るか分からない暗闇の中でお通夜をした。そして、被災者として一時出水に帰省。八月、再び次の動員先の宇都宮の中島飛行機製作所に向かうため上京し、東京で終戦を迎えた。八月十五日ごろ、同郷の先輩で医学生だった沖洲さんと、焦土と化した東京を後に帰郷の途についた。途中、八月六日に原爆投下された広島駅、そして筑後川の鉄橋をやつと通り、八代駅に着いた。駅前旅館で休憩し、鹿児島本線不通のため、長い三太郎峠のトンネル内を歩いた。入口で待機していた韓国人の少年に二十円渡し、リュックを運んでもらい、やつとの思いで出水に辿りついた（当時、出水・東京間の鉄道運賃は十五円くらいだった）。帰つてみたら家は留守で、近所は人影もなかった。まず腹ごしらえと御飯を焚き、満腹になったころ、米軍が上陸するとのデマで避難していた母が私のことを心配して帰宅。再会を喜び合った。

二十一世紀を迎え、戦争を知らない世代に「戦争と平和」を話すのはむずかしい。だが、次の世代の孫達が現代の受験戦争に耐えて、命の尊さ、思いやりの優しさを忘れずに生きていくくれたら、きっと、平和が続くと信じている。

（現代編 戦後の混乱から復興へ）





August

8月

二十四節気 立秋(8月7日) 処暑(8月23日)

キーワード 帰省・お盆・夏祭り・終戦・花火・夕立

2020年

蝉時雨・朝顔・ひまわり・西瓜



月	火	水	木	金	土	日	
間隔を空けて お並び下さい 						1	2
						夏の省エネ 総点検の日	おやつの日 ホコ天記念日
						パインの日	博多人形の日
						麻雀の日	
3	4	5	6	7	8	9	
ハサミの日	栄養の日	ハコの日	広島原爆忌	鼻の日	そろばんの日	長崎原爆忌	
はちみつの日	橋の日	タクシーの日	ハムの日	バナナの日	親孝行の日	世界の先住民の 国際デー	
ハモの日	ビヤホールの日		太陽熱発電の日		ひょうたんの日		
司法書士の日		草田男忌 (中村草田男 1983)			國男忌 (柳田國男 1962)	野球の日 ムーミンの日	
10	11	12	13	14	15	16	
山の日	ガンバレの日	国際青少年デー	函館夜景の日	水泳の日	終戦記念日	女子大生の日	
道の日	スポーツ中継の日	君が代記念日		専売特許の日	刺身の日		
焼き鳥の日		航空安全の日					
西鶴忌 (井原西鶴 1693)		健次忌 (中上健次 1992)					
17	18	19	20	21	22	23	
プロ野球 ナイター記念日	高校野球記念日	バイクの日	NHK創立記念日	献血の日	チンチン電車の日	白虎隊自刃の日	
		俳句の日	交通信号の日	噴水の日		奴隸貿易とその廃止 を記念する国際デー	
荒磯忌 (高見順 1965)		世界人道デー 義秀忌 (中山義秀 1969)	世界蚊の日		藤村忌 (島崎藤村 1943)		
24	25	26	27	28	29	30	
薬害根絶デー	パラスポーツの日	人権宣言記念日	ジェラートの日	民放テレビ スタートの日	核実験に反対する 国際デー	強制失踪の被害者の ための国際デー	
ラグビーの日	即席ラーメン記念日		「男はつらいよ」の日				
野菜の日	川柳発祥の日			バイオリンの日	文化財保護法 施行記念日	冒険家の日	
				気象予報士の日	有吉忌	有吉忌 (有吉佐和子 1984)	
					ケーブルカーの日		

8月のできごと

東京都で初の歩行者天国実施(1970年8月2日)  
 国産インスタントコーヒー発売(1960年8月11日)  
 植村直己が五大陸最高峰登頂者となる(1970年8月26日)  
 文化財保護法施行(1950年8月29日)

作家の命日・8月

1日 阿久悠 2007年 15日 さくらももこ 2018年  
 2日 赤塚不二夫 2008年 17日 島木健作 1945年  
 3日 阿川弘之 2015年 18日 深沢七郎 1987年  
 4日 松本清張 1992年 30日 池内紀 2019年



主な文学賞 (19年度実績)

小林秀雄賞 新潮ドキュメント賞  
 谷崎潤一郎賞 中央公論文芸賞

運動・週間

水の週間(8月1日~7日)  
 世界母乳育児週間(8月1日~7日)  
 北方領土返還運動全国強調月間(8月1日~31日)  
 食品衛生月間(8月1日~31日)  
 海の夏季安全推進活動期間(8月1日~31日)  
 秋の睡眠健康週間(8月27日~9月10日)

**8/1現在、出水市立図書館は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、お座席を半減して開館しています。又、読み聞かせ会等の行事も見合わせています。ご理解とご協力をお願いします。**

中央図書館 電話0996-63-2105 今月の休館日は 17日(定期)  
 高尾野図書館 電話0996-82-5452 // 21日(定期)  
 野田図書館 電話0996-84-3100 // 21日(定期)

今月の休館日は?

メールアドレス izumilibrary@iaa.itkeeper.ne.jp <https://www.izumi-library.com>